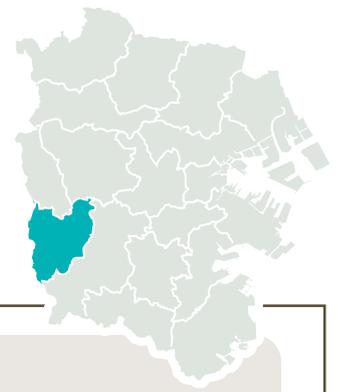




泉区



令和2年度の取組内容

内容

- 講演1 (リモート) 「がん治療の今」
神奈川県立がんセンター 舩田 佳子 ジェネラルマネージャー
- 講演2「緩和ケア病棟について」
藤沢湘南台病院 小原 由里 医療ソーシャルワーカー

参加者

61人

実施までの準備

これまで実施してきた検討会等で、本人もしくは家族に精神疾患(疑いも含む)のある場合の対応についての悩みが多く聞かれました。精神疾患について理解し、精神疾患及びその疑いのある家族(主に介護者)との関係作りや支援の在り方を考えるため、障害担当と連携し、研修会を企画しました。

実施概要

研修タイトル

令和3年度「在宅チーム医療を担う人材育成研修」

第1回 事例を用いた精神保健福祉研修

実施方法 Web等を活用したオンライン形式(使用ツール:Zoomミーティング)

日時 令和3年8月19日(木) 14時45分～16時45分

内容 講演: 私たちは何を見て、どのように支援しようとしているのだろうか?…長谷川 俊雄

参加者 40名

内訳

- ①医師(1名) ②歯科医師(1名) ③薬剤師(3名) ④ケアマネジャー(19名) ⑤介護福祉士(1名)
⑥地域包括支援センター(4名) ⑦行政職員(8名)
⑧上記以外(3名/職種:相談員2名、相談室看護師1名)

第2回 VR看取り体験

実施方法 集合での実施

日時 令和4年3月17日(木) 14時40分～16時10分

内容 講演: 高齢者住まい看取り研修…株式会社シルバーウッド 黒田 麻衣子

参加者 31名

内訳

- ①医療ソーシャルワーカー(1名) ②ケアマネジャー(6名) ③地域包括支援センター(3名)
④包括以外のケアプラザ職員(1名) ⑤行政職員(17名)
⑥上記以外(3名/職種:在宅医療相談室2名、小規模多機能事業所所長1名)

参加者の意見

第1回

- 支援者が問題解決するのではなく、本人の何気ない話の中から本音を聞き、一緒に考えることが大切だと思いました。
- 診断名や目の前に見えている現象だけにとらわれない、背景に着目することが重要だと感じました。
- 各職種で視点が異なるため、連携し支援することが重要であることを改めて認識しました。
- 多職種の方と意見交換ができてよかったです。 ● Zoom形式のため気楽に参加できました。

第2回

- 本人の意思を大切にしたい看取りは、本人だけでなく家族や関わった人が全員満足できるものになると感じました。
- 看取りをどうするかということだけでなく、どう生きたいか、その先の最後をどう迎えたいかを話し合いたいければと考えました。

研修の成果

第1回

アンケートから、サービスにつなげるだけが支援ではなく、本人・家族の思いや生活に寄り添い、信頼関係を構築することが大切と学んだとの意見が多くあり、関係作りや支援の在り方について考えるきっかけとなったと考えます。



第2回

VRでの救急医療の現場体験がリアルで効果的でした。支援者としての役割や今後の実際の対応について意見を深めて行きたいです。



今後の方向性と次年度に向けて

第1回

- 精神疾患の理解を深めたいとの意見が多かったです。介護保険関係者と障害者支援関係者の相互理解の場を設けていく必要があります。在宅医療相談室や地域包括支援センターと協力し、事例検討等を行って行きたいです。
- 8050問題について検討継続したいです。

第2回

- 研修と共に、もしバナゲームや事例検討等様々な方法でACPについて考える機会を設けます。